

学院史編纂室共同研究報告

二〇一七年度の共同研究のテーマは次のとおりである。

研究テーマ	研究員
宣教師研究	<p>○ルース M・グルーベル 池田 裕子(学院史編纂室) 神田 健次(顧問) D・H・デルミン (高等部) 舟木 讓(経済学部) 村瀬 義史(総合政策学部) J・メンセンデイク(神学部) 山内 一郎(名誉教授)</p>
関西学院の戦前・戦中・戦後	<p>○井上 琢智(元経済学部) 岩野 祐介(神学部) 打樋 啓史(社会学部) 辻 学(広島大学大学院) 中道 基夫(神学部) 本郷 亮(経済学部)</p>

(○印・主任研究員)

「宣教師研究」として、ランバス、ニュートン、ベイツを中心とした共同研究を、二〇一六年度から継続して取り組んでいる。

神田健次研究員は、学院の創立者W・R・ランバス宣教師が、神戸栄光教会に次いで創設した広島流川教会創立一三〇周年記念に招かれたことを機に、教会創立と草創期の関西学院との深い関わりや広島への平和運動に重要な貢献を果たしてきたことをめぐり、「広島流川教会一三〇周年記念と平和への祈り」(『学院史編纂室便り』四六号、二〇一七年一二月)を執筆した。

また、これまでの宣教師研究の成果も反映させながら、左記のような記念礼拝説教や講演を行う機会が与えられた。

1、広島流川教会創立一三〇周年記念礼拝説教「伝統の灯火を新たにかかげ」、及び記念講演「W・R・ランバス宣教師の〈瀬戸内宣教圏〉の構想と展開」(二〇一七年五月一四日 広島流川教会)

2、鎮西学院平和祈念礼拝「平和を実現する人々」、及び鎮西学院高等学校教師修養会講演「時代の担い手としてのキリスト教学校―共に喜び、共に泣く」(二〇一七年八月九日 鎮西学院)

3、聖和短期大学学校礼拝「W・R・ランバス宣教師の使命」(二〇一七年九月 聖和短期大学)

4、神戸バイブルハウス・セミナー四回連続講義「ミナト神戸のキリスト教の展開と聖書―エキユメニカルな視座から―」(二〇一八年一月―二月 神戸バイブルハウス)

5、神戸東部教会一〇〇周年記念礼拝説教「福音の同労者」、及び記念講演「草創期の神戸東部教会の歩み」(二〇一八年三月 神戸東部教会)

なお、これまでの学院史に関連した教会の創立記念説教や講演、及び紀要論文が、左記のように今年度出版物として刊行された。

1、『関西学院教会一〇〇年史』(教会創立百周年記念礼拝説教「喜びと感謝をむねに」が収録掲載、関西学院教会 会 二〇一七年二月)

2、『日本基督教団宇和島中町教会創立一三〇周年誌』(教会創立百三十周年記念講演会「W・R・ランバス宣教師の〈瀬戸内宣教圏〉の構想と展開」、宇和島中町教会 二〇一八年二月)

3、「中国におけるW・R・ランバス宣教師の足跡を求めて」(中国の学術誌『医療社会史研究』北京、中国社会科

学出版社、二〇一七年六月に翻訳掲載：この論文は『関西学院史紀要』第二三号、二〇〇七年三月に掲載)

池田裕子研究員は、広報誌『K. G. TODAY』のため、次の四本を日本語と英語で執筆した。①「誕生日に書いた辞表」"A Birthday Resignation" ②「松山から来た転校生」"A Student from Matsuyama" ③「炎のランナー」を支えた友情」"Friendship with the Flying Scotsman" ④「恩師と教え子」"Student and Teacher"。

本年はC・J・L・ベーツ第四代院長生誕一四〇年に当たることから、『学院史編纂室便り』にベーツに関する原稿を掲載した。第四五号のために、「トロントのクレセント・コテージ」と「教え子と教職員が語るベーツ先生」を執筆し、第四六号には、ESS・OBの井口禎三さん(経済昭三九)に「ベーツ先生に寄せて」を「寄稿いただいた。さらに、ベーツの誕生日(五月二六日)にあわせて、小冊子『関西学院のエスプリー〜三五』、リーフレット「原田の森の関西学院」と「関西学院の時計台」を作成した。なお、「原田の森の関西学院」は、神戸文学館企画展「煉瓦色の記憶〜一〇〇年まえの原田の森」(四月二八日〜七月三日)でも、配布していただいた。

日本カナダ会からは、カナダ建国一五〇年記念イベント

への協力を求められた。六月二五日にANAクラウンプラザホテル神戸で開催されたイベントでの展示写真と解説を提供し、日本語と英語の小冊子「関西学院とカナダ」Canada and Kwansei Gakuin を作成した。

タイミング良く六月二日に、日本を観光旅行中のスコットベーツさん（ベーツ院長ご曾孫）ご一家を関西学院にお迎えすることができた。その様子を紹介する形で、『母校通信』第一四〇号に「カナダ建国一五〇年、ベーツ院長生誕一四〇年」を寄稿した。スコットさんからは、ベーツに関する資料をご寄贈いただき、早速大学博物館の展示で紹介された。

このほか、『母校通信』編集委員会から依頼を受け「関西学院スピリットの生き証人」原田の森と上ヶ原を結ぶ門（一四〇号）と「関西学院スピリットの生き証人」ベーツ先生と卒業生（二四二号）を執筆し、卒業生の母校や恩師に対する思いを紹介した。

八月、ペンケ駐日ラトビア大使（第二代）が任期を終え、本国に帰られることになったが、それを機に、これまでの関西学院とラトビアとの関係をまとめ、日本語と英語で小冊子『関西学院とラトビア』、Latvia and Kwansei Gakuin を作成した。記念に大使に差し上げたところ、大変喜ばれ

た。

昨年に引き続き、ベーツ資料の翻訳も続けた。「ベーツ資料の翻訳―高等部長として、院長として、学長として―」を「研究ノート」として、当紀要に発表した。

さらに、今年度も同窓会東京支部から依頼を受け、「関西学院の真実」炎のランナー、野球の里帰り、英語発音の革命」というタイトルで講演を行った（関西学院同窓会東京支部三日月会、二〇一七年一〇月一八日）。

「関西学院の戦前・戦中・戦後」も、継続した共同研究のテーマである。

井上琢智研究員は、「吉岡美国と敬神愛人（一）」（六）、「関西学院大学史紀要」六（二〇〇）〜一〇（二〇〇四）号、一二号（二〇〇六）執筆以降、懸案であった第五代院長神崎驥一の伝記執筆の準備として今年度から関連史料・資料の収集を開始し、詳細な年譜を作成中である。具体的に、①「開校四十年記念 関西学院史」、②「開校四十年記念 関西学院史」など本学刊行の各年史、③「恒平」などの本学学生による刊行物、④「滞米中神崎が既知となった、国際連盟協会の中心人物渋沢栄一の『渋沢栄一伝記資料』」などである。また、神崎の家族関係情報蒐集

のために神崎宅に寄宿していた同窓の武用光一氏から聞き取りを行い、佐藤信子氏にも聞き取りを近々実施する予定である。また、神崎が在学していたと思われる香登小学校での在学確認、さらに通っていた香登教会をも訪問する予定である。最後に、現在では稀覯本となっている『恒平』

を学院史編纂室へ寄贈いただいた国際研究部（国際連盟協会関西学院学生支部の後身）、香登への聞き取りにご協力いただいた同窓の近藤良雄・北村良蔵両氏および池田裕子研究員に深く感謝いたします。また、この調査過程で得られた史料・資料にもとづき「戦間期関西学院における『恒久平和』運動について―神崎驥一、乾精末と国際連盟協会、排日移民法、太平洋問題調査会、軍事教練―」を執筆し、『紀要』に投稿した。本号でその一部を発表している。

辻 学研究員は、関西学院における宣教師の役割に関する歴史的検証を主題として研究を継続しており、今年度は主に、第二次世界大戦終了後に活動を再開した宣教師が学院の運営体制の中でどのような働きを担ってきたかという点について資料収集を行った。次年度はその成果の一部を発表できる見込みである。

また本学の「人権教育の基本方針」策定時より、継続して行っている「小寺学長代行提案」に関する継続的な検証

をもとに、総合コースにおいて「『関学』学―関西学院の歴史」を上ヶ原キャンパスと神戸三田キャンパスのそれぞれで講義を行った。